

許 可 番 号	倫-605
研 究 課 題 名	脊椎固定器具を使用した前方仙腸関節固定の後方視的検討
診 療 科	整形外科
研 究 責 任 者	最上 敦彦
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター 三宅喬人
研究の目的と方法	<p>高エネルギー外傷に伴う不安定型骨盤輪骨折は、致命的になりうる外傷である。さらに、治療の遅延や不適切な治療は座位の際の腰痛や、排尿や排便の障害、性交時の機能的な障害を高い確率で引き起こす。骨折型が様々であることから、不安定型骨盤輪骨折の外科的な治療法は定まっていない。海外では、IS スクリューやプレートなどを使用して固定する方法が報告されている。</p> <p>現在世界的に最も使用される頻度が高い IS スクリューによる内固定は、小範囲の皮膚切開により行うことが可能で、開放創に関連した合併症を減らすことができる一方で、スクリュー挿入にあたり、その位置異常、神経損傷、血栓症や塞栓症といった複数の報告がある。</p> <p>我々は今回、仙腸関節脱臼や腸骨近位の粉碎を伴う骨盤輪骨折に対し、脊椎固定器具を使用した前方仙腸関節固定を考案した。この方法は IS スクリュー挿入に関連した合併症を減らすことができ、また整復に要するアプローチで、同時に固定も行うことができる。本研究の目的はこの固定法の臨床成績を後方視的に検討することである。</p> <p>尚、本法を施行した患者の検査データなどの情報は匿名化し研究対象者の個人情報とは関係ない研究用 ID を付して管理を行い、共同研究施設には郵送で送付する。送り先施設では、鍵のかかるロッカーに保管し三宅喬人が厳重に管理する。</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	診療記録、検査データ、血液データ
研 究 対 象 者	西暦 2012 年 5 月 1 日から西暦 2020 年 12 月 31 日の間に当院に搬送となった骨盤骨折患者で、脊椎固定器具を使用して前方仙腸関節固定を施行した患者
研 究 対 象 期 間	西暦 2012 年 5 月 1 日から西暦 2020 年 12 月 31 日の間
利用する者の範囲	多施設共同研究 研究代表機関名：順天堂大学医学部附属静岡病院 代表研究責任者：大林 治

個人情報の取扱いについて	使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。
お問い合わせ先	該当する研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。 順天堂大学医学部附属静岡病院 整形外科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：最上 敦彦